

✿ 令和2年度 くまもと・わくわく基金 ✿

冠基金 公益社団法人 熊本法人会ファンド

事業報告

団体名：

傾聴ボランティア くまもと

助成事業名：

熊本地震の被災者支援、公営住宅等を訪問し
お話を傾聴する

団体紹介

2011年設立、会員19名。

熊本市社会福祉協議会を通して、高齢者施設・ホスピス・病院などで傾聴ボランティア活動を行う。

また同協議会などの依頼により、傾聴ボランティア養成講座の講師を務める。

毎月会報を発行し、市民や各施設、関係機関に配布し活動を紹介する。

2016年熊本地震以降各地の仮設住宅で、また2020年以降は各地の復興住宅で傾聴ボランティア活動を継続。



(1)実施内容

お茶会カフェの開催

①訪問場所:熊本市東区秋津公民館、南区白藤団地集会室、益城町木山仮設住宅

②訪問回数:14回

③参加人数:被災者参加 延べ137名、ボランティア参加 延べ75名

開催にあたってはチラシを配布、また自治会長さんに案内をお願いした。コロナ感染予防のため、検温、連絡先の記録、消毒、換気、マスクの着用を徹底した。



(2)助成金の活用

助成金の利用内容

- ①会場使用料、切手代、チラシ印刷代
- ②ボランティアの交通費
- ③コロナ感染防止対策費

パーティションの作成、体温計、アルコール消毒薬、ペーパータオル等の購入

- ④花、飲み物の購入

助成金の効果

コロナ禍、消毒薬など必要なものを求めることが出来、安心して活動することができた。参加する被災者の方も安心して参加が出来た。

お花を飾ることで話しやすい雰囲気作りが出来た。また、話のきっかけになったり、視覚的にも和んだ。

(3)成果、市民の声(参加者やサポートを受けた方)

慣れない住環境の中、被災者の方々がお茶会カフェに足を運び、たくさんおしゃべりをしながら笑ったり心配し合ったりしたことで、少しずつお元気になられたことは、傾聴活動の大きな成果です。また、新しい復興住宅で住民同士の繋がりをつくるためには、傾聴の場がとても有効であると強く感じました。

参加者の声

傾聴の人が来てくれて自分がすごく助けられています。自分もお世話になるばかりでなく少しは人さまのお役に立たなくてはと思うようになりました。ご近所のお年寄りのお茶の相手をしたり、声をかけたりするようになりました。



(4)今後の事業展開

被災者の方々にお茶会カフェのお誘いをすると、必ず集まってくださることは、お茶会カフェが認知され必要とされていることの証です。今後は、コロナ感染予防対策をしながらお茶会カフェの開催とその継続が重要だと考えます。また、お茶会カフェの参加を躊躇されている方、お一人で復興住宅にいらっしゃる方々の支援を考え活動の場所をシフトしていくことが急務であり、私たちのこれからの傾聴活動の軸にしていきたい。

